

授業展開例（技術・家庭）

1. 学年 第3学年
2. 題材名 「情報と私たちの生活 情報社会と私たちの責任」(開隆堂 3年・産経新聞)
3. 題材の主たる目標
 - ・コンピュータの基礎的・基本的な装置の構成や操作などの実践的・体験的な学習を通してコンピュータに親しみを持たせる。
 - ・個人情報の無自覚な流出は自他の権利を侵害する恐れがあることを理解させ、情報を適切に収集、発信できるようにする。

【普遍的視点】

権利と責任

- ・無責任な発言や無自覚に行われる個人情報の流出は、自他の権利を侵害し大きな犯罪につながる恐れがあることを理解させ、権利の行使に伴う責任を自覚させる。

4. 評価規準

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
自らの課題をコンピュータを使って解決しようとする。	情報化が社会や生活に及ぼす影響を知り、情報モラルの必要性について考える。	情報活用能力を身につけようとする。	基本的な構成と機能を知り、操作ができる。

5. 指導計画と評価規準（40時間「情報」関連3年間全体を示す）

次	学習内容	評 価					
		関	創	技	知	評価規準	評価方法
1	コンピュータのしくみと基本操作 (7時間)					コンピュータの基本的な構成と機能を知り、操作ができる。	ノート 行動観察
2	コンピュータの利用 (10時間)					コンピュータの利用形態がわかる。 ソフトウェアを使って基本的な情報処理ができる。	行動観察
3	情報通信ネットワークの利用 (4時間)					情報の伝達方法の特徴と利用方法がわかる。 情報を収集、判断、処理し、発信できる。	行動観察
4	マルチメディアの活用 (10時間)					マルチメディアの特徴と利用方法をわかる。 ソフトウェアを選択して、表現や発信ができる。	行動観察
5	プログラミングと計測・制御 (8時間)					プログラムの機能を知り、簡単なプログラムが作成できる。	ワークシート
6	情報社会と私たちの責任 (1時間) 本時					無責任な発言や無自覚に行われる個人情報の流出は、自他の権利を侵害することがわかる。	発表

6. 本時のねらい

- ・インターネット上での犯罪の例をもとに、無責任な発言や無自覚に行われる個人情報の流出は、自他の権利を侵害し大きな犯罪につながる恐れがあることを理解する。

【権利と責任】

7. 展開

	学習内容	教師の支援（発問と留意点）	評価規準	評価方法
導入	1 インターネットの種類 ・www ・電子メール ・電子掲示板 ・チャット	1 「インターネットでできることは？」 情報が自由に取り出せることになった。	1 これまでの学習が理解できている。	発言
展開	2 情報化社会の光と影（暮らしやすさ） ・住民サービス ・バスや列車の時間がわかる（暮らしにくさ） ・暗証番号が多い ・何が正しいかわからない ・ネット被害	2 「情報が多い社会は暮らしやすいか？」 ・家、学校、社会などでの、情報と暮らしとの関わりを考えよう。	2 身近なところから考えている。	観察 発言
展開	3 特に大きな問題点 ・差別的な内容をもったホームページ ・個人情報の流出によるストーカー行為、迷惑メール 4 対策 ・不必要な個人情報の流出禁止 ・誹謗中傷するホームページへ通告	3 問題点は情報の中身である。 ・新聞やテレビで聞いたことを思い出させる。 ・「ネットストーカー急増」の資料を読む。 ・公共のネット上で理由もなく、差別されたり、情報の流出によって、プライバシーが侵害され、生活が脅かされるといった事実は、人権に関わる問題であることを押さえる。 4 個人のプライバシーを守り、安心して暮らせる社会にするためにどういった対策をとるか？ また、高度情報通信社会に生きる人間として、どのようなことに気をつけなければならないか？	3 既知のニュースとあわせて理解しようとしている。 4 解決策を考えることができる。	発言 ワークシート
まとめ	5 まとめ 無責任な発言や、無自覚に行われる個人情報の流出は、自他の権利を侵害し大きな犯罪につながる恐れがある。	5 情報の流出は、商売とも結びつくことが多いこともつけ加える。	5 情報の取り扱いについての注意が理解できる。	つぶやき 発表 ノート

8. 評価

無責任な発言や、無自覚に行われる個人情報の流出は、自他の権利を侵害し大きな犯罪につながる恐れがあることを理解できたか。【権利と責任】

情報基礎 「インターネット社会を生きる」

1. インターネットの種類

ホームページを発信したり，検索できたりする

メールのやりとりができる

多くの人がメッセージを書き残すことができ，自由に見ることができる

同じ時間に，多くの人が文字による会話をすることができる

2. 情報が多い社会は暮らしやすいか

暮らしやすい点

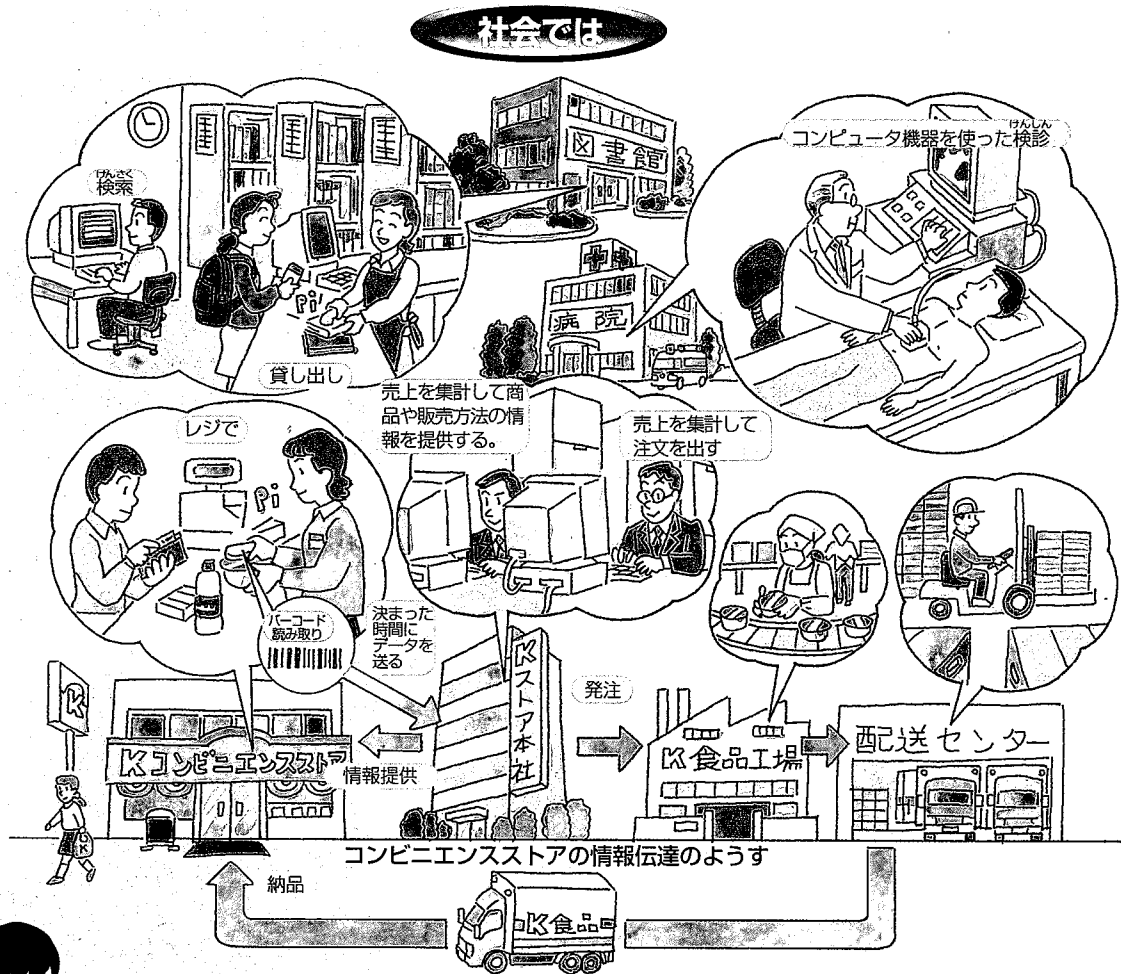
暮らしにくい点

3. 問題点

現在，インターネットや携帯電話などの通信機器が，数年のうちに爆発的に普及したため，多くのさまざまな情報が出されている。

4. 問題点を改善するためには私たちはどうすればよいか

1 生活とコンピュータのかかわりを考えよう

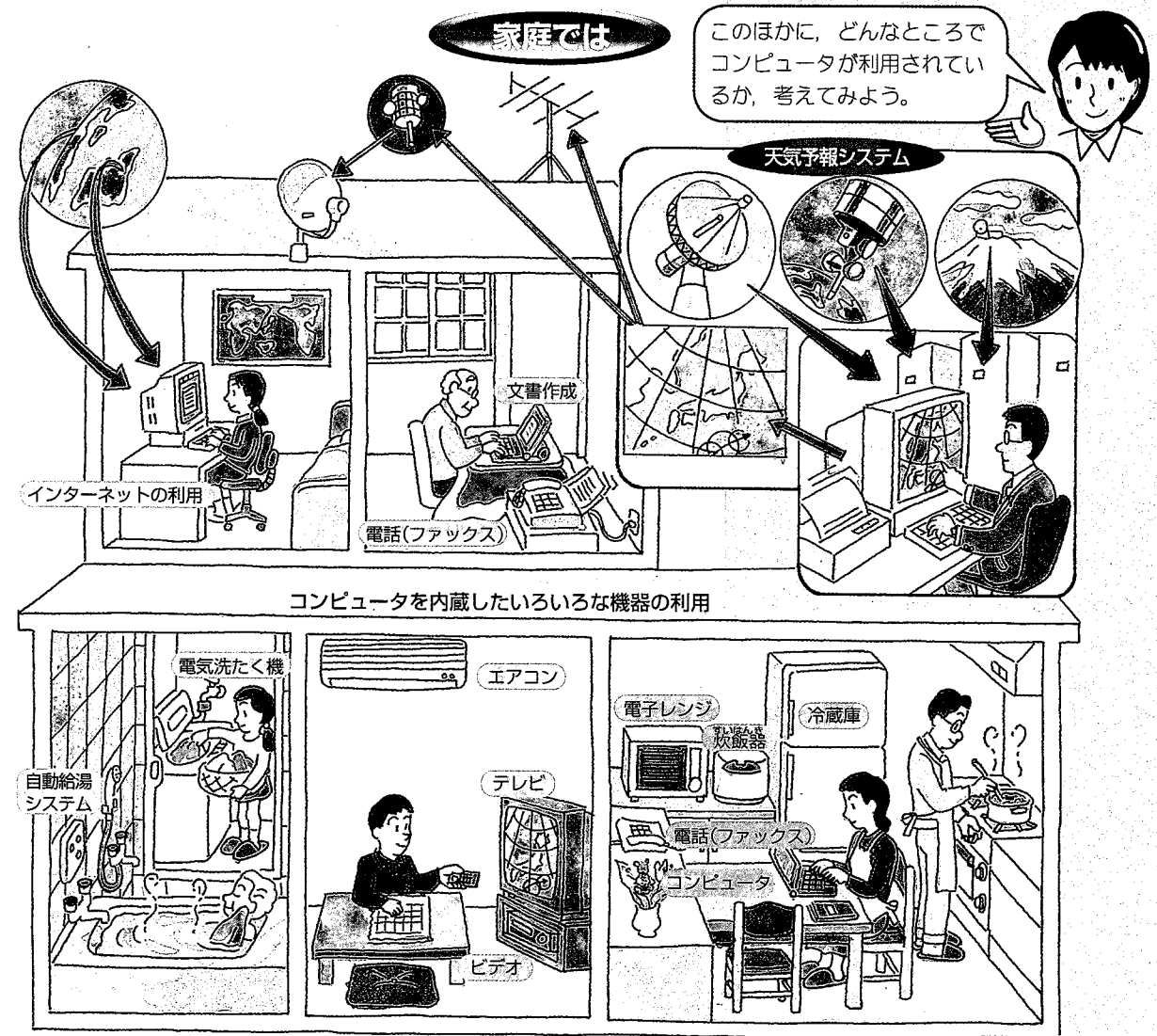


1図 わたしたちの生活と

コンピュータが
つながっているね。

- わたしたちは、どんな情報を利用しているかな。
- 情報は、どんなはたらきをしているだろうか。
⇒p.140
- どんなところでコンピュータが使われているの
だろう。
- コンピュータの発達によって、どんな点が便利
になってきたかな。

わたしたちの身の回りでは、コンピュータを使
たいろいろな機器が利用されています。
たとえば、コンビニエンスストアでは、バー
コードを使って商品の種類や売り上げ状況を管理してい
ます。バーコードから読み取った情報は、レシート
に出力されると同時に、どのような商品がどれぐ
らい売れているかという情報として蓄積ちくせきされます。全
国の店の情報は、決まった時間に収集され、商品の
売上状況を調べることができます。こうして、客が



コンピュータの活躍

購入した情報を収集し、処理することによって、
どんな商品を必要としているかを知り、店に新しい
情報を発信することができます。情報を収集・処理
・発信するためには、正確で速く仕事ができるコン
ピュータがなくてはならないものとなっています。
現代は高度情報通信社会といわれ、家庭や社会の
さまざまな分野でコンピュータが利用されています。
コンピュータを利用すると、どんな利点があるのか、
考えてみましょう。

- 情報を伝達するには、
どんな手段があり、どん
なことがやりとりされて
いるだろうか。
- 情報を取り扱うときは、
どんなマナーが必要かな。
⇒p.141

わたしたちの生活の中では、インターネットを利用した情報のやり取りが広く利用されるようになってきました。さらに、これからの社会は、新しいメディア（ニューメディア）の誕生と相まって、情報の大量生産、流通、高度利用に対応した高度情報通信社会となっていくことでしょう。情報通信ネットワークは、ますます大切な役割を果たすこととなります。この便利なネットワーク社会も進化を続けています。ネットワーク社会をよりよく利用していくために守るべきことや、注意すべきこともいろいろあります。情報を正しく表現したり、発信したりするために、ネットワーク社会のルールや守っていくべきことについて考えてみましょう。

Web ページをつくる、掲示板などのページに書くというような、不特定多数の人びとが見ることのできるページをつくる時は、良識を持って責任のある表現や発言をする必要があります。

自分から、うその情報を流さないようにするとか、わざわざ相手の気分を害する表現や書き方をしないようにするなど、いつも気をつけるべきです。

情報の表現や発信をする
社会は公共の場

「ネットワーク上の掲示板に友達の顔写真と電話番号をのせたら、その友達の家に、まったく知らない人からのいたずら電話や嫌がらせの電話が相次いでありました。」という事件もあります。

ネットワーク利用では、ハンドルネームというニックネームで参加する場合があります。つまり、本名を名乗らなくても情報のやり取りができてしまうわけです。この利点は、本人の肩書きや年齢にとらわれない、対等な立場での表現や発信ができることです。しかし、自分勝手に、不道德な内容になる場合もあり、責任ある情報の発信とはならない場合もあります。

コンピュータを利用したネットワーク社会は、さまざまな情報をすばやくやり取りをすることができるなどの利点があります。しかし、ネットワークの便利さだけを追求するのではなく、多くのコンピュータが結ばれていて、その前の前には情報を受け取る「人」がいるということをお忘れではありません。